

第76回

トラック運送業界の景況感（速報）

平成23年10月～12月期

平成23年10～12月期の景況感は、東日本大震災後の落ち込みから持ち直しがみられつつあったものの、欧州債務危機による世界経済の減速懸念や円高、タイ洪水の影響などをうけて、輸出関連企業を中心に回復基調が足踏みした。

このような中、トラック運送業界の景況感の判断指標は▲46で、前回（▲47）から1ポイントの改善であった。指標は改善したものの勢いは弱い。

先行きに関しても不透明な状況が続く。国内では震災の復興需要が見込まれるものの、欧州債務危機問題の出口は見えず、円高の恒常化もあいまって不安要因は多い。1～3月期の業界の景況感の判断指標は▲49で、今回から3ポイント下げる見込み。

平成24年1月30日

社団法人 全日本トラック協会

1. 今回（平成23年10月～12月期）の状況

(1) 概況

平成23年10～12月期におけるトラック運送業界の景況感は、「好転」とした事業者は6%（前回8%）、「悪化」とした事業者は45%（前回48%）で、判断指標は▲46となり、前回（▲47）より1ポイント改善した。

貨物別では、宅配貨物はやや水準を下げたが、一般貨物はやや改善した。運賃料金の水準は一般貨物ではやや改善した。

(2) 特別積合せ貨物

宅配貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が36%、「増加」とする事業者が14%で、判断指標は▲30となり、前回（▲24）から6ポイント悪化した。営業収入は「減少」とする事業者が43%、「増加」とする事業者が13%で、判断指標は▲40となり、前回（▲28）から12ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が42%、「増加」とする事業者が9%で、判断指標は▲42となり、前回（▲27）から15ポイント悪化した。

宅配以外の特積貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が33%、「増加」とする事業者が14%で、判断指標は▲24となり、前回（▲28）から4ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が37%、「増加」とする事業者が10%で、判断指標は▲33となり、前回（▲32）と大きな変化はみられなかった。営業利益は「減少」とする事業者が43%、「増加」とする事業者が6%で、判断指標は▲43となり、前回（▲34）から9ポイント悪化した。

(3) 一般貨物

一般貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が33%、「増加」とする事業者が19%で、判断指標は▲18となり、前回（▲27）から9ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が36%、「増加」とする事業者が19%で、判断指標は▲23となり、前回（▲30）から7ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が42%、「増加」とする事業者が13%で、判断指標は▲35となり、前回（▲40）から5ポイント改善した。

(4) 運賃水準

運賃水準は、宅配貨物は▲24（前回▲18）、宅配以外の特積貨物は▲15（前回▲12）、一般貨物は▲14（前回▲21）であった。一般貨物ではやや改善したが、宅配貨物はやや弱含んでおり、2四半期連続で水準を下げた。

(5) 実働率等

実働率は▲13（前回▲18）、実車率は▲13（前回▲17）となり、持ち直しがすすんでいる。

雇用状況（人手の過不足）は+11（前回+10）、採用状況は▲7（前回▲10）、所定外労働時間は▲8（前回▲11）で、労働関連の指標はほぼ横ばい。

保有車両台数は▲10（前回▲12）、貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は▲14（前回▲20）となり、ほぼ下げ止まった。

(6) 地域別および取扱い品目別

業界の景況感を地域別にみると、東北は相対的に水準が良い。前回から水準を上げているのは中国、九州、北海道。中部は前回より水準を下げている。四国は前回に続き地域別で最も水準が低い。

事業者の規模別では、規模が小さくなるほど水準が低い。

主な取扱い品目別では、機械関連貨物が前回に続き改善し最も水準が良い。建設関連貨物もやや改善している。一方、消費関連貨物、その他貨物はやや水準を下げている。

2. 今後（平成24年1月～3月期）の見通し

(1) 概況

平成24年1～3月期の見通しは、業界の景況感の判断指標は▲49で、今回から3ポイント下げる見込み。

(2) 特別積合せ貨物

宅配貨物は、輸送数量、営業収入は僅かに改善する見込み。

宅配以外の特積貨物は、輸送数量、営業収入、営業利益ともやや改善する見込み。

(3) 一般貨物

一般貨物は、輸送数量の水準がやや悪化する見込み。

(4) 運賃水準

宅配貨物は引き続き弱含みの見込み。宅配以外の特積貨物、一般貨物は今回とほぼ同様の水準の見込み。

(5) 実働率等

実働率、実車率はやや水準を下げる見込み。雇用状況（人手の過不足）、採用状況は横ばい、所定外労働時間はやや水準を下げる見込み。

保有車両台数、貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は、横ばいの見込み。

(6) 地域別および取扱い品目別

業界の景況感を地域別にみると、東北は引き続き相対的に水準が良い見込み。中国は水準を下げ最も厳しい見込み。四国も引き続き低水準の見込み。

事業者の規模別では、大規模事業者ではやや改善するが、小規模事業者ではやや水準を下げる見込み。

主な取扱い品目別では、建設関連貨物が水準を下げる見込み。

3. 特積貨物の概況

項 目		概 況	
宅	輸送数量	前回 1 (-24) 今回 0 (-30) 見通 0 (-27)	<ul style="list-style-type: none"> ・前回より6ポイント悪化した。地域別では北海道は大きく改善し、やや増加の水準を示したが、東北は大きく悪化し、減少水準となっている。四国も大きく悪化した。 ・今後は僅かに水準を上げる見込み。
	営業収入 (売上高)	前回 2 (-28) 今回 1 (-40) 見通 1 (-34)	<ul style="list-style-type: none"> ・前回から12ポイント悪化した。地域別では東北は大きく悪化し減少水準となっている。中部、四国も水準を下げた。規模別では中規模事業者の水準が低い。 ・今後はやや水準を上げる見込み。
	営業利益	前回 1 (-27) 今回 1 (-42) 見通 1 (-41)	<ul style="list-style-type: none"> ・前回より15ポイント悪化した。地域別では東北は大きく悪化し減少水準となっている。規模別では規模が大きくなるほど水準が低い。 ・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。
	運賃・料金の水準	前回 0 (-18) 今回 1 (-24) 見通 1 (-27)	<ul style="list-style-type: none"> ・前回から6ポイント悪化した。地域別では中国の水準が低く、下落水準となっている。北海道、九州は相対的に水準が良い。規模別では中規模事業者の水準が低い。 ・今後も僅かに悪化する見込み。

【調査の概要】

- ◆平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。
今回は平成23年12月31日に配布。
平成24年1月25日到着分までを集計。
- ◆回収率：63.3%

	特 積	一 般	合 計
調査対象	258	642	900
回収数	113	457	570

項 目		概 況	
宅配	輸送数量		前回 1 (-28) 今回 0 (-24) 見通 0 (-19)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回より4ポイント悪化した。地域別では北海道は大きく改善し、最も水準が良い。中国も大きく改善し、北陸信越、近畿と並んで相対的に良い。東北、関東、四国は水準が低い。 ・ 今後はやや水準を上げる見込み。 		
以外	営業収入 (売上高)		前回 1 (-32) 今回 0 (-33) 見通 0 (-27)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回より1ポイント悪化した。地域別では北海道は大きく改善し、最も水準が良い。東北は最も水準が低く減少水準となっている。 ・ 今後はやや水準を上げる見込み。 		
特積	営業利益		前回 1 (-34) 今回 0 (-43) 見通 0 (-31)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回より9ポイント悪化した。地域別では特に東北が大きく悪化し、大幅減少の水準となっている。北海道は大きく改善し、最も水準が良い。 ・ 今後は水準を上げる見込み。 		
貨物	運賃・料金の水準		前回 0 (-12) 今回 0 (-15) 見通 0 (-14)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回より3ポイント悪化した。地域別では中国の水準が最も低い。関東、北陸信越、北海道は改善し、相対的な水準も良い。 ・ 今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。 		

凡例

	大幅に 増加・上昇・好転・人手不足	+2点
	やや 増加・上昇・好転・人手不足	+1点
	横ばい	0点
	やや 減少・低下・悪化・人手過剰	-1点
	大幅に 減少・低下・悪化・人手過剰	-2点

(注1) 各グラフの上段は前回の状況、中段は今回の状況、下段は今後の見通しを示す。

(注2) 各グラフの構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

(注3) グラフ右のカッコ内は業況判断指標。指標は、各設問の回答に対し、増加・好転+1~+2、横ばい0、減少・悪化-1~-2の点数を与え、1事業者当たりの平均を100倍することにより算出している。

$$A \text{ (設問Aの回答者数)} = a_1 + a_2 + a_3 + a_4 + a_5 \text{ (設問Aの選択肢1~5の回答数の和)}$$

$$\text{指標} = \{ (+2 \times a_1) + (+1 \times a_2) + (0 \times a_3) + (-1 \times a_4) + (-2 \times a_5) \} \div A \times 100$$

4. 一般貨物の概況

項 目	概 況
<p>輸送数量 (全 体)</p>	<p>・前回より9ポイント改善した。地域別では四国の水準が相対的に低い。北陸信越、中国は相対的に良い。規模別では小規模事業者、品目別ではその他貨物の水準が相対的に低い。 ・今後はやや水準を下げる見込み。</p>
<p>営業収入 (売上高)</p>	<p>・前回より7ポイント改善した。地域別では北陸信越は改善し相対的な水準が良い。中国、東北も改善している。規模別では小規模事業者、品目別ではその他貨物の水準が相対的に低い。 ・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。</p>
<p>営業利益</p>	<p>・前回より5ポイント改善した。地域別では中国は前回から改善し相対的な水準も良い。四国は前回より悪化し減少水準となっている。品目別ではその他貨物の水準が相対的に低い。 ・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。</p>
<p>運賃・料金の水準</p>	<p>・前回より7ポイント改善した。地域別では四国以外はほぼ下げ止まりの水準を維持。規模別では小規模、中規模事業者で、品目別では建設関連貨物、その他貨物で前回よりやや水準を上げた。 ・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。</p>

5. 共通の概況

項 目	概 況
<p>実働率</p>	<p>前回 0 14 57 25 4 (-18) 今回 1 14 61 22 3 (-13) 見通 1 9 65 22 3 (-18)</p>
<p>・前回より5ポイント改善した。地域別では中国、九州は前回から改善し、相対的に良い。四国は相対的に水準が低い。 ・今後はやや水準を下げる見込み。</p>	
<p>実車率</p>	<p>前回 1 13 60 23 4 (-17) 今回 1 13 62 21 3 (-13) 見通 1 8 66 23 3 (-18)</p>
<p>・前回より4ポイント改善した。地域別では九州、中国は前回から改善し、相対的に良い。 ・今後はやや水準を下げる見込み。</p>	
<p>雇用状況 (人手の過不足)</p>	<p>前回 2 16 74 8 1 (10) 今回 2 18 71 9 1 (11) 見通 2 19 67 11 1 (10)</p>
<p>・前回より1ポイント改善した。地域別では東北、中国でやや人手不足となっているが、他の地域では過不足感はない。 ・今後も過不足感はほぼない見込み。</p>	
<p>採用状況</p>	<p>前回 1 6 81 8 4 (-10) 今回 0 8 80 9 3 (-7) 見通 1 7 80 9 3 (-7)</p>
<p>・前回より3ポイント改善した。地域別、規模別、品目別の全てでほぼ前年並み。 ・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。</p>	
<p>所定外労働時間</p>	<p>前回 1 10 70 16 3 (-11) 今回 1 10 74 14 3 (-8) 見通 0 7 75 15 3 (-13)</p>
<p>・前回より3ポイント改善した。地域別では東北、中国は前回より改善し、全国並みに追いついた。 ・今後はやや水準を下げる見込み。</p>	

項 目	
保有車両台数	<p>前回 0 6 78 14 2 (-12)</p> <p>今回 0 6 78 14 1 (-10)</p> <p>見通 0 6 81 13 1 (-9)</p> <p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回より2ポイント改善した。地域別、規模別、品目別ですべて前年並みとなっている。 ・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。
貨物の再委託 (下請運送会社への委託割合)	<p>前回 1 9 67 18 6 (-20)</p> <p>今回 0 9 71 15 5 (-14)</p> <p>見通 1 8 73 14 4 (-13)</p> <p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回より6ポイント改善し、ほぼ下げ止まった。地域別では東北の水準が相対的に低い。 ・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。
経常損益	<p>前回 1 12 47 32 8 (-33)</p> <p>今回 1 13 50 31 6 (-29)</p> <p>見通 1 11 51 32 6 (-32)</p> <p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回より4ポイント改善した。地域別では中国は前回から改善し、相対的に水準が良い。東北も相対的に良い。四国は相対的に最も水準が低い。 ・今後は僅かに水準を下げる見込み。
業界の景況感	<p>前回 0 8 44 41 7 (-47)</p> <p>今回 0 6 49 37 8 (-46)</p> <p>見通 1 6 46 41 8 (-49)</p> <p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回より1ポイント改善した。地域別では、中国、九州、北海道で前回から改善、一方四国は悪化水準が続いている。品目別では機械関連貨物、建設関連貨物で前回から改善。 ・今後は僅かに水準を下げる見込み。

6. 事業者特性格別の特徴

事業者特性	特 徴																																												
<p>① 地域（注4）</p>	<p>◆「業界の景況感」の業況判断指標の地方ブロック別順位◆</p> <table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td>H 2 3 年</td> <td>H 2 3 年</td> <td>H 2 4 年</td> </tr> <tr> <td></td> <td>7～9月期</td> <td>10～12月期</td> <td>1～3月期見通し</td> </tr> <tr> <td>1位</td> <td>中部</td> <td>→ 東北</td> <td>→ 東北</td> </tr> <tr> <td>2位</td> <td>東北</td> <td>→ 北海道</td> <td>→ 中部</td> </tr> <tr> <td>3位</td> <td>北陸信越</td> <td>→ 中国</td> <td>→ 関東</td> </tr> <tr> <td>4位</td> <td>北海道</td> <td>→ 中部</td> <td>→ 北海道</td> </tr> <tr> <td>5位</td> <td>近畿</td> <td>→ 九州</td> <td>→ 北陸信越・九州</td> </tr> <tr> <td>6位</td> <td>関東</td> <td>→ 北陸信越</td> <td>→ 近畿</td> </tr> <tr> <td>7位</td> <td>九州</td> <td>→ 関東</td> <td>→ 四国</td> </tr> <tr> <td>8位</td> <td>中国</td> <td>→ 近畿</td> <td>→ 中国</td> </tr> <tr> <td>9位</td> <td>四国</td> <td>→ 四国</td> <td>→ 中国</td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>— 文字の凡例 —</p> <p>標準文字: やや悪化</p> <p>ゴシック: 悪化</p> <p>反転文字: 強い悪化</p> </div>		H 2 3 年	H 2 3 年	H 2 4 年		7～9月期	10～12月期	1～3月期見通し	1位	中部	→ 東北	→ 東北	2位	東北	→ 北海道	→ 中部	3位	北陸信越	→ 中国	→ 関東	4位	北海道	→ 中部	→ 北海道	5位	近畿	→ 九州	→ 北陸信越・九州	6位	関東	→ 北陸信越	→ 近畿	7位	九州	→ 関東	→ 四国	8位	中国	→ 近畿	→ 中国	9位	四国	→ 四国	→ 中国
	H 2 3 年	H 2 3 年	H 2 4 年																																										
	7～9月期	10～12月期	1～3月期見通し																																										
1位	中部	→ 東北	→ 東北																																										
2位	東北	→ 北海道	→ 中部																																										
3位	北陸信越	→ 中国	→ 関東																																										
4位	北海道	→ 中部	→ 北海道																																										
5位	近畿	→ 九州	→ 北陸信越・九州																																										
6位	関東	→ 北陸信越	→ 近畿																																										
7位	九州	→ 関東	→ 四国																																										
8位	中国	→ 近畿	→ 中国																																										
9位	四国	→ 四国	→ 中国																																										
<p>② 規模（注5）</p>	<p>・業界の景況感は、規模が小さくなるほど水準が低い。</p>																																												
<p>③ 品目（注6）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消費関連貨物を扱う事業者では前回と比べ景況感の水準を僅かに下げた。一般貨物の輸送数量では農水産品の水準が相対的に低い。今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。 ・建設関連貨物を扱う事業者では前回と比べ景況感の水準をやや上げた。一般貨物の輸送数量としてみると、金属製品の水準が高く、窯業品、鉱産品も持ち直した。今後は水準を下げる見込み。 ・機械関連貨物を扱う事業者では前回と比べ景況感の水準を上げた。一般貨物の輸送数量としてみると、輸送機械、その他機械は前回より改善したが電気機械は水準を下げた。今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。 ・その他貨物（生産関連）を扱う事業者では前回と比べ景況感の水準をやや下げた。一般貨物の輸送数量としてみると、化学肥料、繊維工業品が前回より水準を下げ相対的にも悪い。鉱産品、金属、金属製品、その他製造工業品は相対的に良い。今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。 <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <p>業界の景況感(品目別、前回からの指標の増減)</p> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>品目別</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消費関連貨物</td> <td>-4</td> </tr> <tr> <td>建設関連貨物</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>機械関連貨物</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>その他貨物(生産関連)</td> <td>-5</td> </tr> </tbody> </table> </div>	品目別	増減	消費関連貨物	-4	建設関連貨物	8	機械関連貨物	13	その他貨物(生産関連)	-5																																		
品目別	増減																																												
消費関連貨物	-4																																												
建設関連貨物	8																																												
機械関連貨物	13																																												
その他貨物(生産関連)	-5																																												

(注4) 地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。

(注5) 規模別分類

大規模事業者：101両以上 中規模事業者：21両以上100両以下 小規模事業者：20両以下

(注6) 品目別分類

消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など

建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品(セメント等)など

機械関連貨物：電気機械(家電含む)、輸送機械(自動車等)など

その他貨物：石炭、原油、金属、石油、化学、紙・パルプなど

7. 景況感一覽表







		特積貨物						一般貨物			雇用関連			総合計		
		宅配貨物			宅配以外の特積貨物											
全 体		↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
地 域	北海道	→	→	→	↘	→	→	↘	↘	↘	→	→	→	↘	→	→
	東北	→	↓	↘	↘	↓	→	↘	→	→	→	→	→	→	↘	→
	北陸信越	→	↘	↘	↘	→	↘	↘	→	→	→	→	→	→	→	→
	関東	↘	↘	→	↘	↘	→	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	→
	中部	→	↘	↘	→	↘	↘	→	↘	→	→	→	→	→	↘	↘
	近畿	↘	↘	↘	→	→	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	中国	↘	↘	↓	↘	↘	↘	↘	→	↘	→	→	→	↘	→	↘
	四国	→	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	九州	↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
事業者規模	小規模事業者	↘	↘	↓	↘	↘	→	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	中規模事業者	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	大規模事業者	→	↘	↘	→	↘	↘	→	↘	→	→	→	→	→	↘	→
取り扱い品目	消費関連貨物	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	→	↘
	建設関連貨物	↘	↘	↘	↘	→	→	↘	→	↘	→	→	→	↘	→	↘
	機械関連貨物	→	↘	→	↘	↘	→	↘	→	→	→	→	→	→	↘	→
	その他貨物	↘	↓	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘

(注7) 各項目は、関連する判断指標(前年同期に対する水準)から平均値を算出。

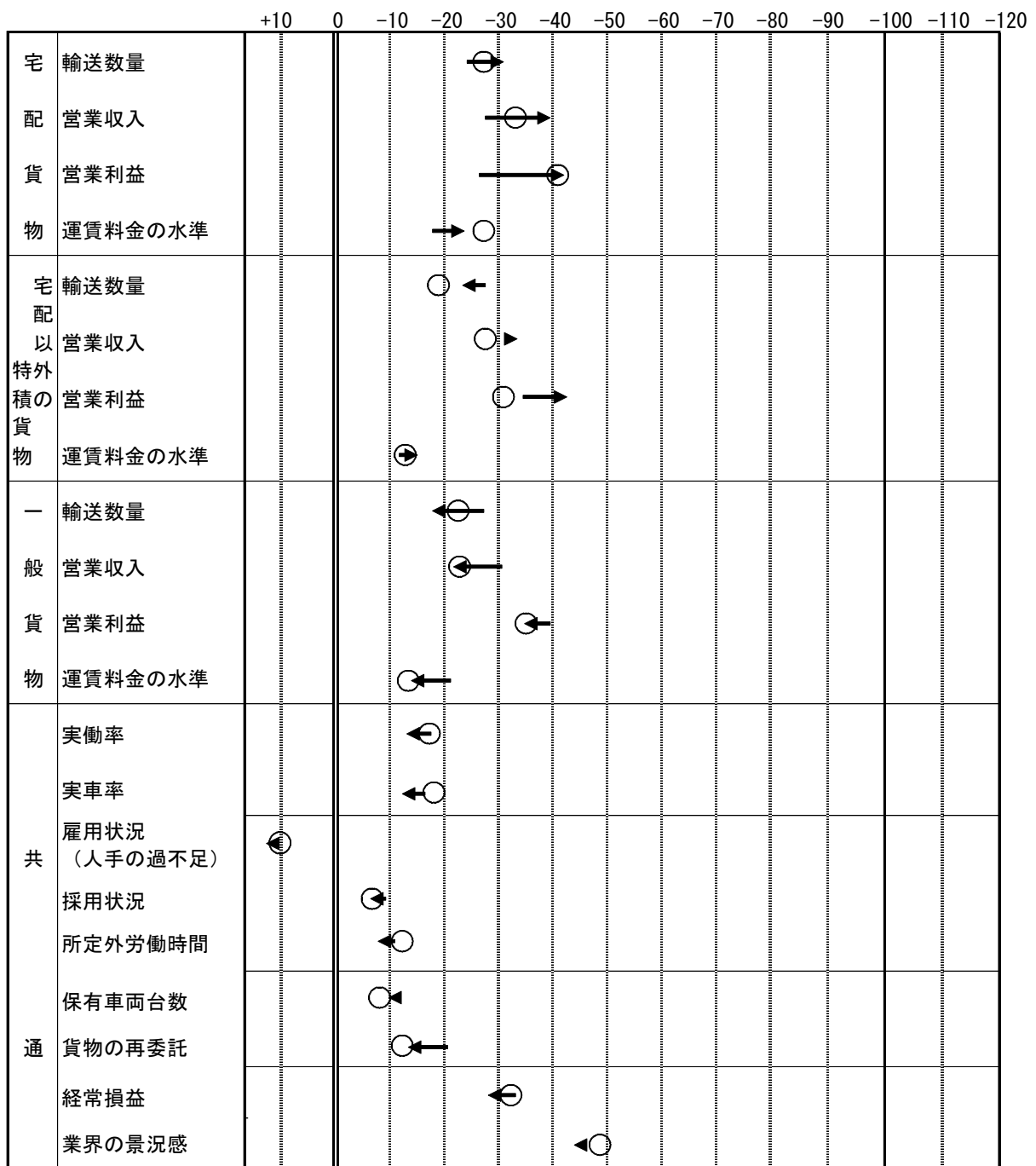
貨物別については、輸送数量、営業収入、営業利益、運賃水準の平均値で判断。

凡例・各欄は、左:前回(7-9月) 中央:今回(10-12月) 右:見通し(1-3月)

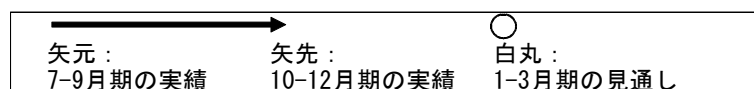
・ 矢印と判断指標の対応

判断指標	… -100 … -60 … -20 … +20 … +60 … +100 …
矢 印	     

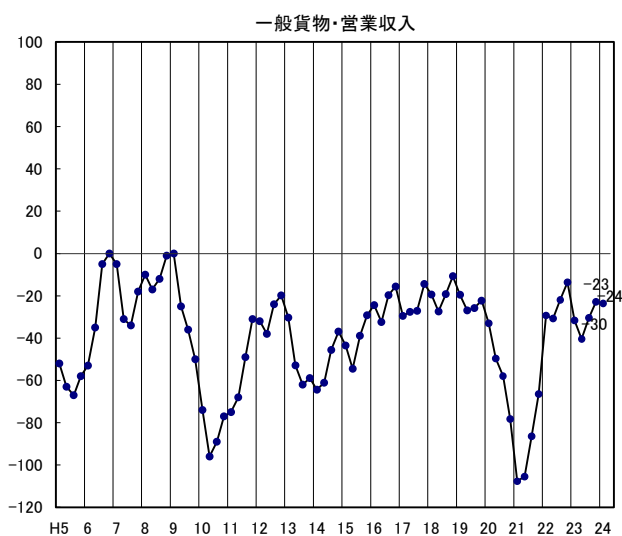
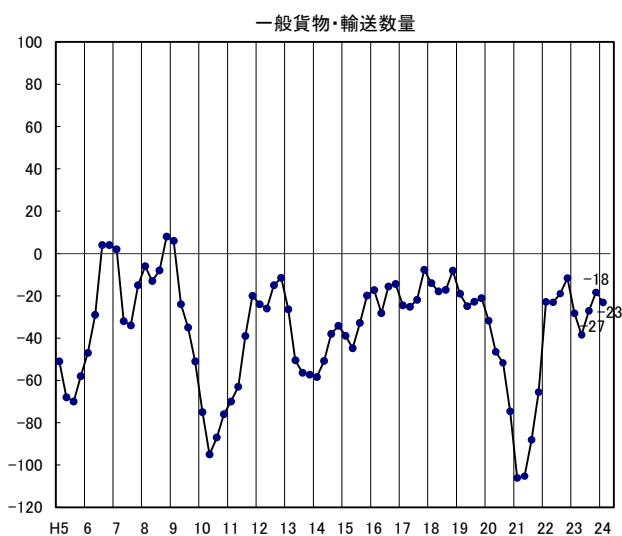
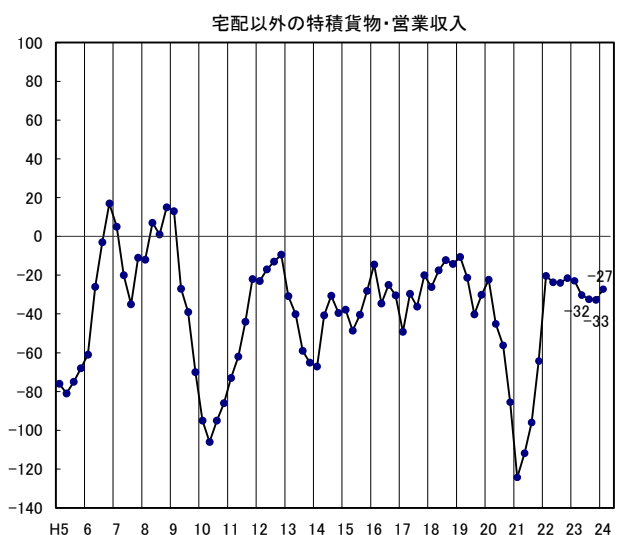
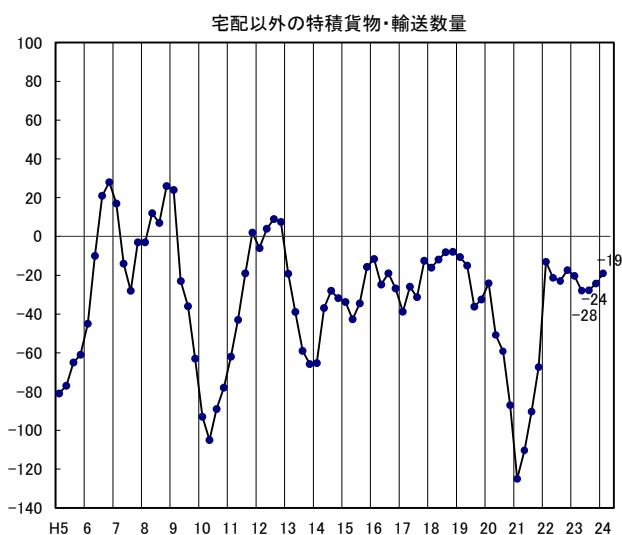
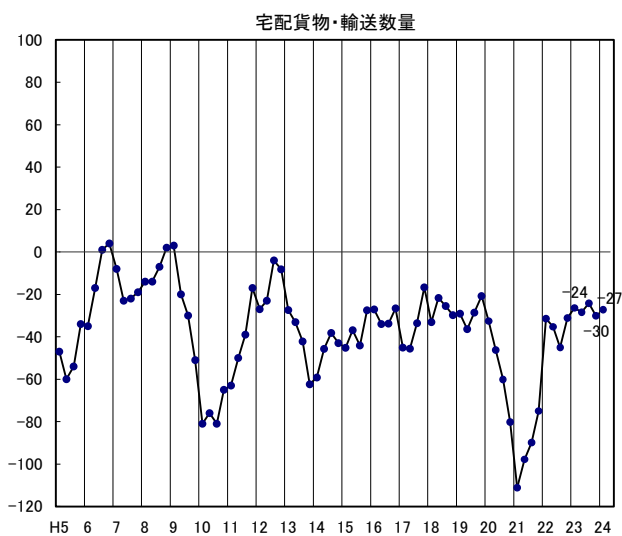
8. 業況判断指標の前回調査（平成23年7月～9月期）からの変化



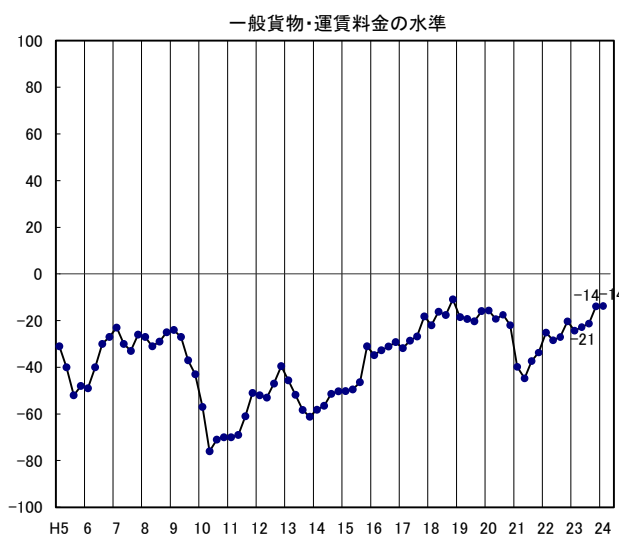
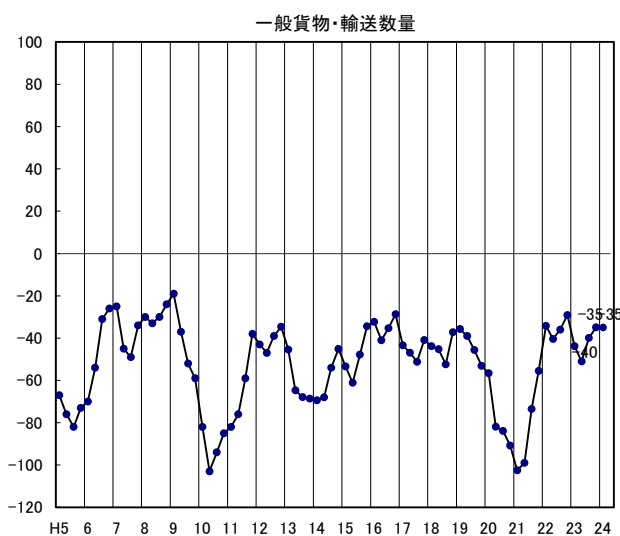
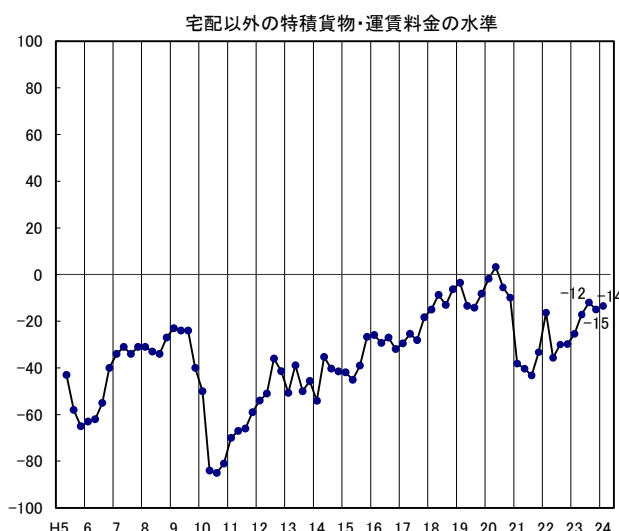
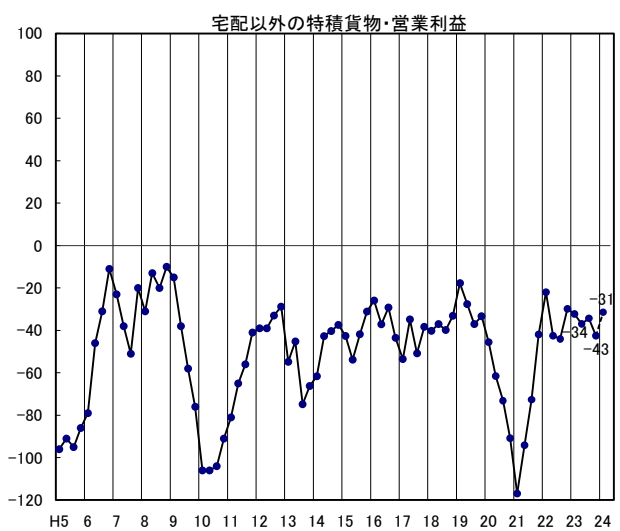
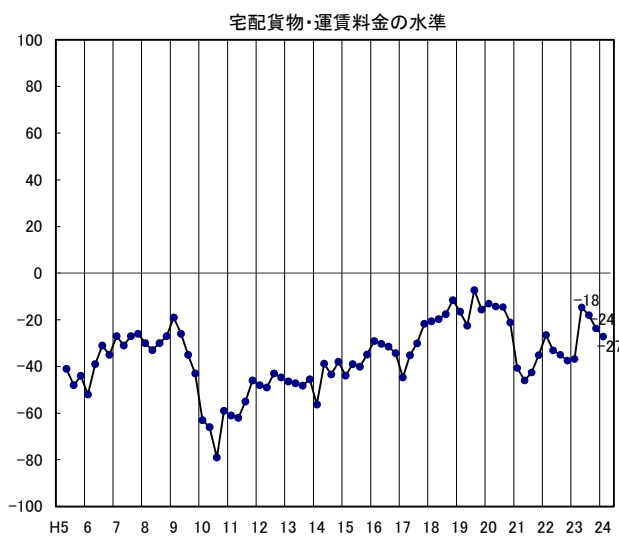
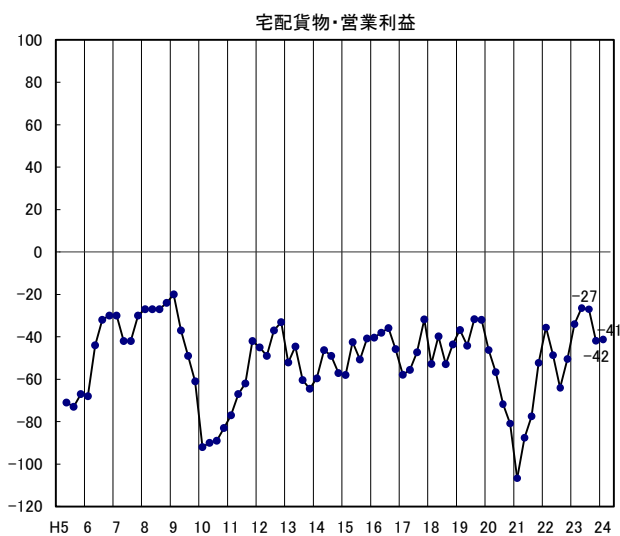
凡 例



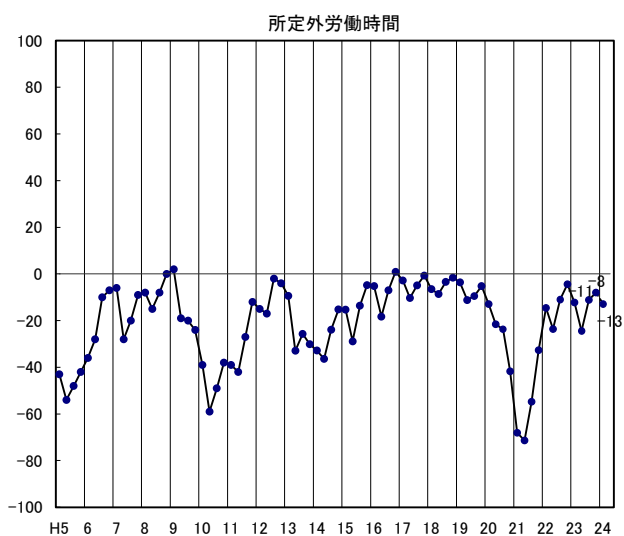
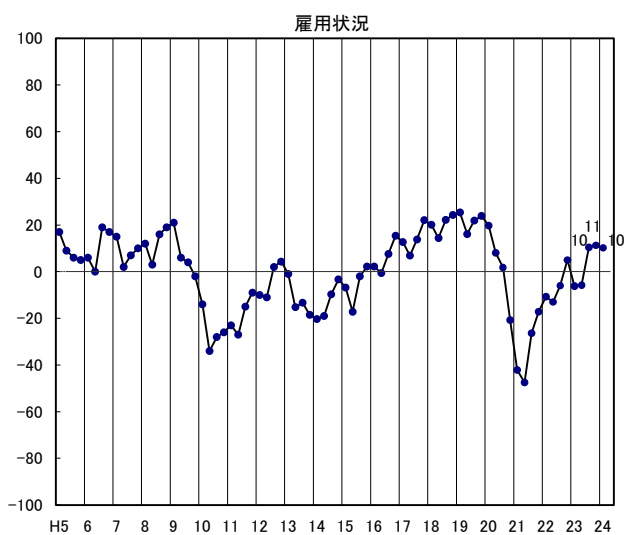
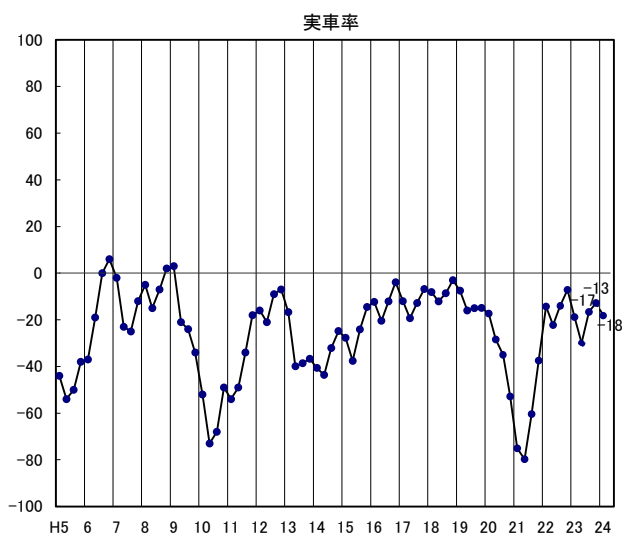
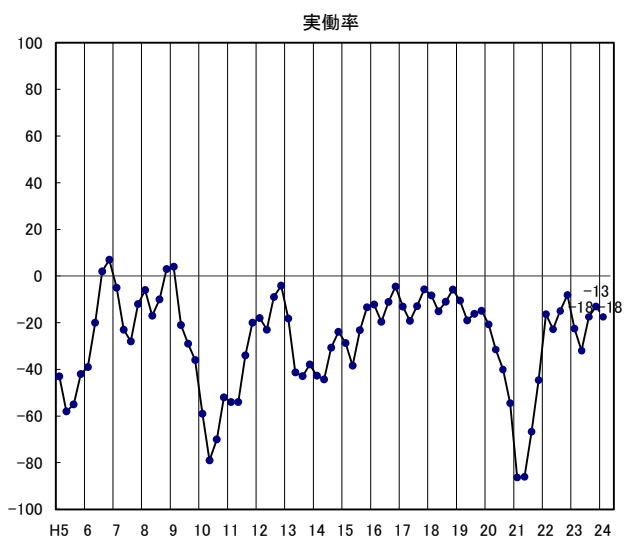
業況判断指標の推移
 平成5年第1四半期～平成23年第4四半期実績、平成24年第1四半期見通し



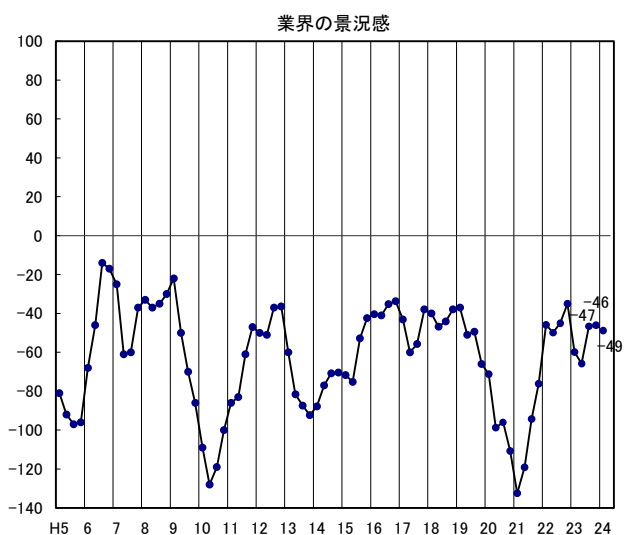
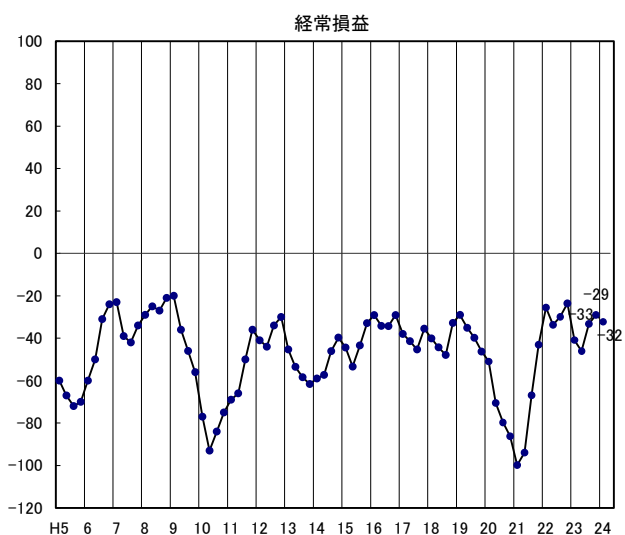
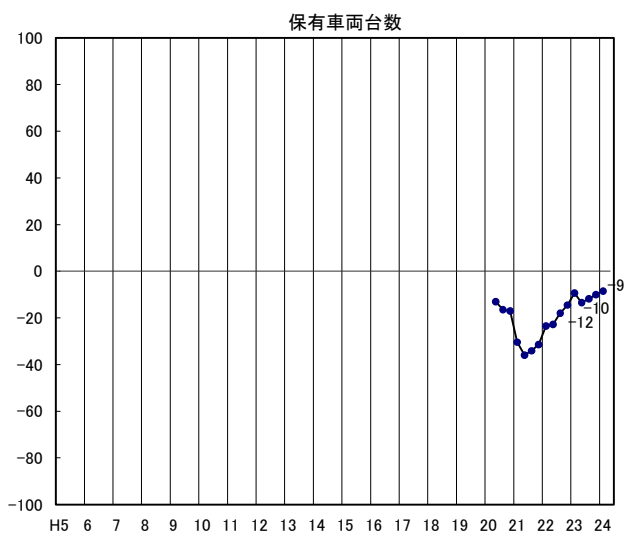
業況判断指標の推移
 平成5年第1四半期～平成23年4四半期実績、平成24年第1四半期見通し



業況判断指標の推移
 平成5年第1四半期～平成23年第4四半期実績、平成24年第1四半期見通し

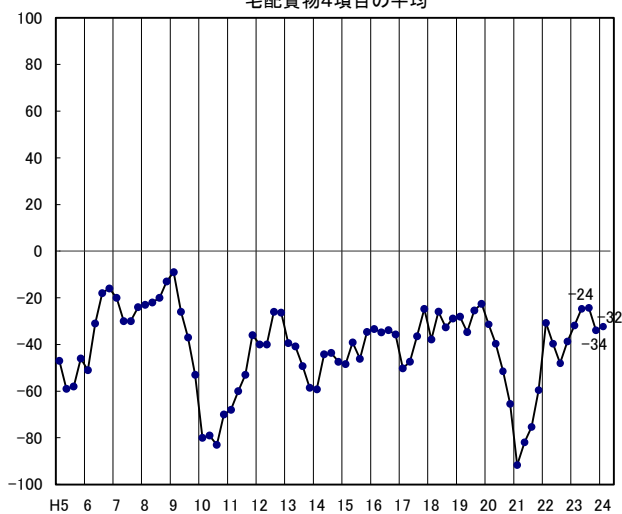


業況判断指標の推移
 平成5年第1四半期～平成23年第4四半期実績、平成24年第1四半期見通し

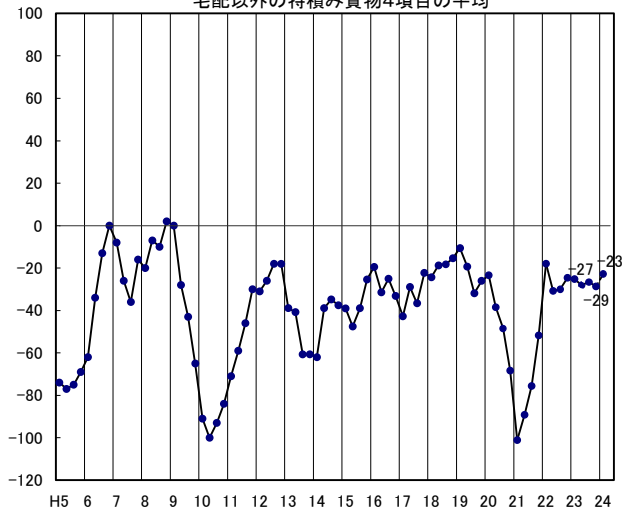


業況判断指標の推移
 平成5年第1四半期～平成23年第4四半期実績、平成24年第1四半期見通し

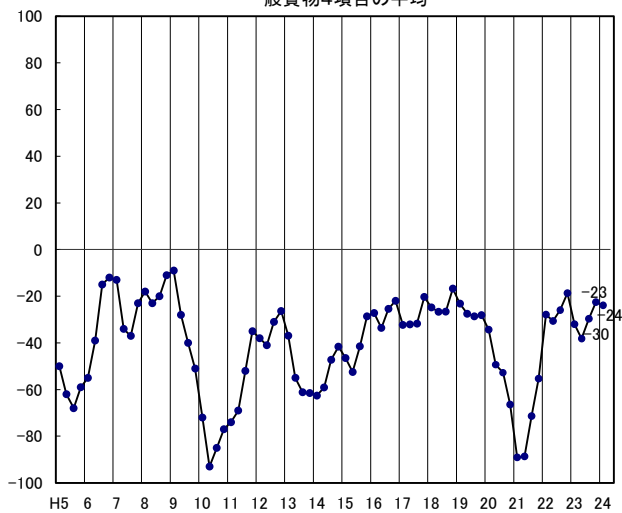
宅配貨物4項目の平均



宅配以外の特積み貨物4項目の平均



一般貨物4項目の平均



全項目の平均

